

大学等名	サイバー大学
プログラム名	AIリテラシーレベル
プログラム掲載URL	<a href="https://www.cyber-u.ac.jp/about/literacy_level.html">https://www.cyber-u.ac.jp/about/literacy_level.html</a>
現在(直近)の認定期間	R3.4.1～R8.3.31

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	IT総合学部IT総合学科
③ プログラム履修必須の有無	既に履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」のすべてに対応する授業科目「データサイエンス入門」に合格し、単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	1 科目
	2 単位

授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																	
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																			
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																			
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AI(人工知能)入門		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IoT入門		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
データサイエンスのための確率統計																			
ITとビジネスのための基礎数学																			
情報処理のための基礎知識																			
C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造																			
コンピュータ入門																			
Cプログラミング演習																			
Pythonプログラミング入門																			
データサイエンス応用		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Pythonプログラミング実践		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
データベース論		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIアルゴリズム																			
AIプログラミング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」「データサイエンス応用」「データベース論」</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンス入門」「IoT入門」</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「AI(人工知能)入門」</li> <li>・データを起点としたもの見方、人間の知的活動を起点としたもの見方「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「データサイエンス入門」「IoT入門」</li> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンドーションなど)「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」「データサイエンス応用」「AIアルゴリズム」</li> <li>・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「データサイエンス入門」「IoT入門」「データサイエンス応用」</li> </ul>
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲にわたっており、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・1次データ、2次データ、データの多様化「データサイエンス入門」</li> <li>・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・データ作成(ビッグデータとアプリケーション)「データサイエンス入門」「IoT入門」「AIプログラミング」</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス入門」「IoT入門」</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がりに(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・研究開発、製造、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「データサイエンス入門」「データサイエンス応用」</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「データサイエンス入門」「IoT入門」</li> <li>・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データサイエンス入門」「IoT入門」「データサイエンス応用」</li> <li>・非構造化データ処理、言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> <li>・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「AI(人工知能)入門」</li> <li>・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス入門」「IoT入門」</li> <li>・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンス入門」「データサイエンス応用」</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス入門」「IoT入門」「データサイエンス応用」</li> <li>・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス入門」「AI(人工知能)入門」「IoT入門」</li> </ul>

(4) 活用に応じた様々な留意事項 (ELSI, 個人情報, データ倫理, AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解を促す	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス入門」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>個人情報保護, EU一般データ保護規則(GDPR), 忘れられる権利, オプトアウト「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>データ倫理: データのねつ造, 改ざん, 盗用, プライバシー保護「データサイエンス入門」</li> <li>「AI(人工知能)入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>AI社会原則(公平性, 説明責任, 透明性, 人間中心の判断)「データサイエンス入門」</li> <li>データバイアス, アルゴリズムバイアス「データサイエンス入門」</li> <li>AIサービスの責任論「データサイエンス入門」</li> <li>データガバナンス「データサイエンス入門」</li> <li>データ・AI活用における倫理的事例紹介「データサイエンス入門」</li> <li>「AI(人工知能)入門」</li> <li>生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成, 偽情報や有害コンテンツの生成・拡散など)「データサイエンス入門」</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティの3要素(機密性, 完全性, 可用性)「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>匿名加工情報, 暗号化と復号, ユーザ認証と, パスワード, アクセスマトリック, 悪意ある情報採取「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>サイバーセキュリティ「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> </ul>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを扱う, 説明する, 扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類(量的変数, 質的変数)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値, 中央値, 最頻値)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>データのばらつき(分散, 標準偏差, 偏差値), 外れ値「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>相関と因果(相関係数, 疑似相関, 交絡)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス入門」</li> <li>打ち切りや欠測を含むデータ, 層別の必要なデータ「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>母集団と標本抽出(国勢調査, アンケート調査, 全数調査, 単純無作為抽出, 層別抽出, 多段階抽出)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>クロス集計表, 分割表, 相関係数行列, 散布図行列「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンスのための確率統計」</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ表現(棒グラフ, 折線グラフ, 散布図, ヒートマップ, 箱ひげ図)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>データの比較(条件をそろえた比較, 処理の前後での比較, A/Bテスト)「データサイエンス入門」</li> <li>不適切なグラフ表現(チャートジャンク, 不要な視覚的要素)「データサイエンス入門」</li> <li>優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス入門」</li> <li>相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え(スライド作成, プレゼンテーションなど)「データサイエンス入門」</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの取得(機械学習可能なデータの作成・表記方法)「データサイエンス入門」</li> <li>データの集計(和, 平均)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>データの並び替え, ランキング「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>データ解析ツール(スプレッドシート, BIツール)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>表形式のデータ(csv)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> </ul>
	4-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率, 順列, 組み合わせ「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>「情報処理のための基礎知識」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>線形代数(ベクトル, ベクトルの基本的な演算, ノルム, 行列とベクトルの積, 行列の積, 内積)「データサイエンス入門」</li> <li>「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「情報処理のための基礎知識」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>多変数関数の微分と積分「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>集合, ベン図「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>指数関数, 対数関数「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「情報処理のための基礎知識」</li> <li>「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」</li> </ul>
以下のオプションを含むもの 4-1 統計および数理基礎 4-2 アルゴリズム基礎 4-3 データ構造とプログラミング基礎 4-4 時系列データ解析 4-5 自然言語処理 4-6 画像認識 4-7 データハンドリング 4-8 データ活用実践(教師あり学習) 4-9 データ活用実践(教師なし学習)	4-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>並び替え(ソート)「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>探索(サーチ)「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> </ul>
	4-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>数と表現, 計算誤差, データ量の単位, 文字コード, 記号「データサイエンス入門」</li> <li>「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」</li> <li>「コンピュータ入門」</li> <li>「Cプログラミング演習」</li> <li>変数, 代入, 繰り返し, 場合に応じた処理「C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造」</li> <li>「Cプログラミング演習」</li> <li>「Pythonプログラミング入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> </ul>
	4-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>時系列データ(トレンド, 周期, ノイズ)「データサイエンス入門」</li> <li>季節調整, 移動平均「データサイエンス入門」</li> </ul>
	4-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>形態素解析, 単語分割, ユーザ定義辞書, n-gram言語モデル, 文章問題似度「データサイエンス入門」</li> <li>「AI(人工知能)入門」</li> <li>「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>かな漢字変換の概要「データサイエンス入門」</li> </ul>
	4-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像データの処理「データサイエンス入門」</li> <li>「ITとビジネスのための基礎数学」</li> <li>「Pythonプログラミング入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> <li>画像認識, 画像分類, 物体検出「AI(人工知能)入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> </ul>
	4-7	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベース(リレーショナルデータベース, SQL)「コンピュータ入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>データクレンジング: 外れ値, 異常値, 欠損値の処理「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>プログラミング(Python, R等)「データサイエンス入門」</li> <li>「Pythonプログラミング入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「Pythonプログラミング実践」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>データの抽出「データサイエンス入門」</li> <li>「データベース入門」</li> <li>データの結合「データベース入門」</li> </ul>
	4-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師あり学習による予測(例)売上予測, 罹患予測, 成約予測, 離反予測など「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>データの収集(分析に必要なデータの確認, 対象となるデータの収集)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>データの分析(単回帰分析, 重回帰分析, ロジスティック回帰分析, モデルの評価)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンスのための確率統計」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> </ul>
	4-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師なし学習によるグルーピング(例)顧客セグメンテーション, 店舗クラスターリング「データサイエンス入門」</li> <li>「IoT入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> <li>「AIアルゴリズム」</li> <li>「AIプログラミング」</li> <li>データの分析(階層クラスターリング, 非階層クラスターリング)「データサイエンス入門」</li> <li>「データサイエンス入門」</li> </ul>
	その他	

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 平成29年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数 合計	修了者数 合計
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
IT総合学部IT総合学科	3,726	1,063	800	4,000	530	424	1,406	1,260	1,301	1,134	162	118	48	33	17	14	3,464	2,983
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
																	0	0
合計	3,726	1,063	800	4,000	530	424	1,406	1,260	1,301	1,134	162	118	48	33	17	14	3,464	2,983

## 認定期間中における成果と課題、今後の計画について

教育プログラムの改善、教育の質向上に資する取組・成果という観点から、可能な限り定量的なデータに基づく分析やこれまでの自己点検・評価結果を踏まえて、記載してください。

項目	具体的な取組の成果、課題
①プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)	本教育プログラムは、データ駆動社会で活躍するための基礎的能力の涵養を目的とし、オンラインの特性を活かして多様な学生に学修機会を提供している。授業評価アンケートでは、5段階評価で4.0を超える高い満足度を維持し、本プログラムで得た知識が実務で役立っているとの回答が多い。外部の客観的なアセスメントテスト(GPS-Academic)でも、数量的・統計的スキルの向上(授業の役立ち度:93.6%)が確認され、オープンバッジの技術を活用したマイクロレディンシャルの授与による学修成果の可視化も実現している。これらの成果は、本教育プログラムが学生の能力向上に確実に寄与していることを示している。課題としては、数学的知識に不安を持つ初学者へのサポート強化や、演習における実践的なデータ分析スキルの定着に個人差が見られる点が挙げられる。今後は学習者のレベルに応じた指導補助の改善を図る。
②履修者数向上に向けた取組	履修者数向上のため、令和5年度より従来の3科目を統合した新科目「データサイエンス入門」を開講し、文理を問わず初学者でも履修しやすい環境を整備した結果、履修者数が大幅に向上した。さらに令和6年度からは全学必修科目に指定した結果、令和7年5月1日時点で在籍する学生の累計履修者数は3,464人に達し、収容定員に対し86.6%という高い履修率を達成した。この一連の施策は、全学生へのデータサイエンス基礎教育の提供という目標を達成し、全学的なりテラー教育の基盤を確立する上で大きな成果を上げ、当初の想定を上回る速さで履修率向上を実現している。課題は、必修化に伴い多様化する学生の学習意欲の維持と、個々の理解度に合わせたサポート体制の構築である。今後は、個別最適化された補助教材の開発や、TAによるフォローアップを強化し、教育の質を担保する。
③修了者数向上に向けた取組	修了者数向上のため、LMSの受講履歴データを毎週分析し、学修遅延の兆候がある学生を早期に把握するデータ駆動型の支援体制を構築している。全学運営委員会ではこれらのデータを共有し、ドロップアウト防止策を講じてきた。また、BIツールで授業評価アンケートと成績評価の相関を分析し、授業改善に繋げることで、学生の学修意欲を維持し単位修得を後押ししている。これらの多角的な取組の結果、令和7年5月1日時点で在籍する学生の修了率は86.1%という高い水準を達成した。課題は、令和6年度からの必修化に伴い、学生自身の学習意欲や数学的素養が多様な学生が増加するため、修了率の維持・向上が今後の重要な課題となる点である。今後は、LMSデータを活用した学修状況の継続的なモニタリングを徹底し、学修につまずきが見られる学生にはTAが早期に個別指導を行うことで、学生一人ひとりの理解度を高め、高い修了率の維持を目指す。
④関連する資格の取得推進に向けた取組	学生の主体的な学修促進と経済的支援のため「資格取得奨励金制度」を設け、令和6年度は情報処理推進機構が実施する資格を中心に139件、約310万円を給付した。本制度が学生の意欲向上に繋がり、IT関連資格の取得者数は年々増加している。また、正規授業外で日本ディープラーニング協会の認定講座を提供し、修了者がE資格に合格した実績もある。これらの取組により、本教育プログラムと関連の深いG検定やDS検定の取得者も増加傾向にある。卒業生が新規開講した本科目「データサイエンス入門」のマイクロレディンシャル取得のため再入学する事例も年間90名を超え、本学の教育がキャリアアップに直結していることを示している。課題は、現行の奨励金制度がデータサイエンスやAI関連の検定資格を直接的な対象としていない点である。今後は制度を見直しを検討し、これらの資格取得をさらに推進することで、学生が専門能力を客観的に証明する機会を後押しする。
⑤修了者の進路、企業からの評価	本プログラムで修得した能力は、修了者の進路に直結する具体的な成果として明確に表れており、とりわけ24歳以下の就職率は95.8%(令和6年3月末時点)という高い水準を達成している。具体的には、情報通信業やその他サービス業(SES等)への就職が約7割を占めるとともに、大手有名企業への就職実績も年々増加しており、本学の教育が産業界から高く評価されていることを示している。さらに、卒業生アンケート(入学時に既に就業していた者も含む)では、約3割が「年収100万円以上増加」と回答しており、「キャリアの選択肢が広がった」「周囲からの評価が上がった」といった声も多数寄せられている。課題は、本教育プログラムで得たデータサイエンスの能力が、多様な業界で活躍する卒業生のキャリアにどう具体的に貢献しているかをより深く分析し、その成果を社会や未来の学生に対して、より効果的に発信していくことである。
⑥プログラムの改善状況	社会における生成AI技術の急速な普及と、文部科学省の最新モデルカリキュラムへの対応のため、教育プログラムの改善を継続的に実施している。具体的には、令和6年度秋学期より本科目「データサイエンス入門」に生成AIに関する内容を追加し、教育内容を迅速に更新した。さらに、基礎レベルに留まらず、より実践的な能力を育成するため、令和7年度春学期より、マイクロレディンシャル「生成AI活用」の教育プログラムを新たに開設した。本教育プログラムは「生成AI概論」を入門とし、ビジネススキルやメディア制作に応用する演習科目を展開することで、社会のDX推進に貢献する人材育成を目指している。課題は、生成AI技術の進化が非常に速いため、常に最新の動向をカリキュラムに反映させ続ける必要がある点である。今後も、産業界の専門家との連携を密にし、定期的な内容の見直しを行うことで、陳腐化しない教育を提供する体制を強化する。
⑦再認定後のプログラムの目標・計画	本教育プログラムは、LMSデータを活用したデータ駆動型の授業改善や、地域プラットフォーム(福岡未来創造プラットフォーム)との連携による教育機会の提供といった特色ある取組が評価され、令和6年8月にプラス選定を受けた。再認定後は、この実績を基盤とし、大学教育としての質保証の徹底と教育内容の充実を継続しつつ、社会全体のデジタルリテラシー向上に貢献する教育基盤へと発展させることを目標とする。具体的には、プラス選定後に開始した福岡県福岡市や他県の教育委員会等を通じた高大連携の実績を、全国の高校生や教員、社会人教育へと拡張する。その際、本学の特色であるマイクロレディンシャル制度を活用し、修了者にはオープンバッジを授与することで、学修成果を社会的に証明できる仕組みを展開する。これらの取組により、中等教育から社会人教育までを繋ぐ、一貫したデータサイエンス教育モデルの構築を目指す。

大学等名	サイバー大学	レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	AIリテラシーレベル	初回認定年度	令和3年度

## 取組概要

### ◆プログラムの目的

サイバー大学では、「**数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム**」のモデルカリキュラムに対応した教育プログラムを編成し、高度IT人材の育成を推進することを目的としています。**(令和6年度よりリテラシーレベルは全学必修化)**

### ◆身に付けられる能力

1. AI・データサイエンスに関連する基礎的な知識および技術について説明できる。
2. AI・データサイエンス領域でのデータの利活用の方法と留意点について、具体的事例を通じて説明できる。
3. 統計学の入門的な知識に基づき、ビジネス課題の解決のために、データを収集・分析することができる。

### ◆修了要件

必須科目に合格し、単位修得すること。修了者には、オープンバッジを授与。

### ◆必須科目

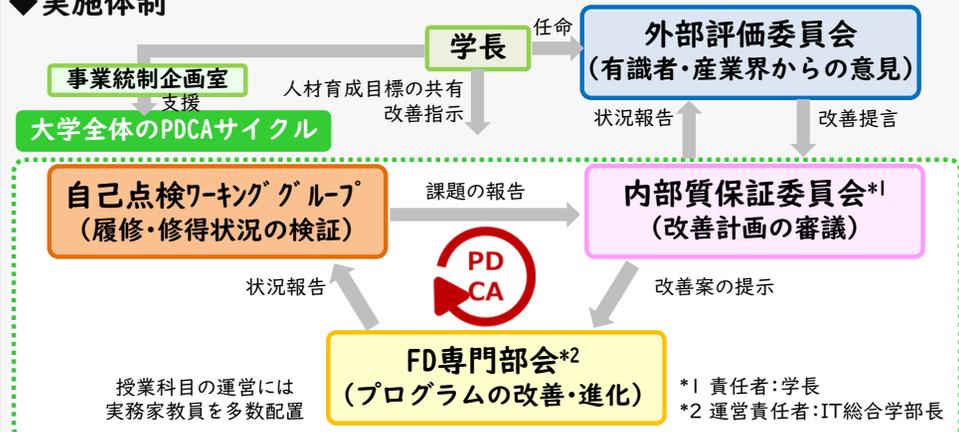
「データサイエンス入門」

### ◆履修者数等の実績

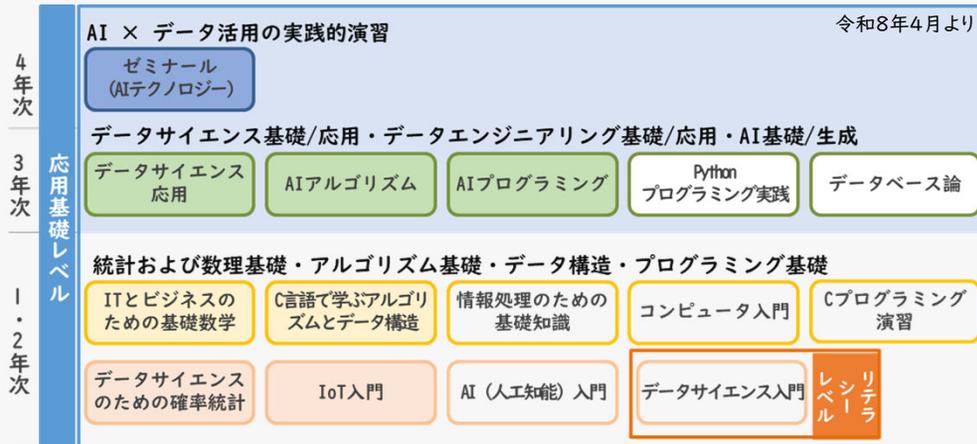
令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度	
履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数
1,515	1,325	1,912	1,663	625	533	386	378

※直近4年間の実績(卒業者等を含む)

### ◆実施体制

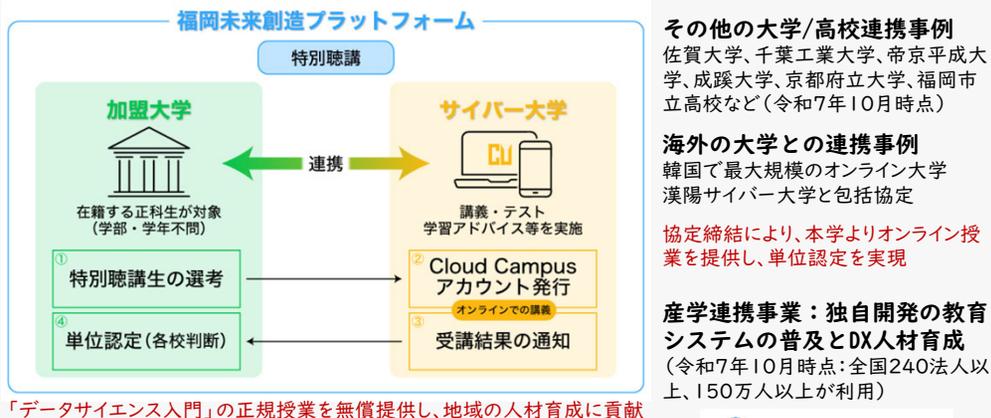


### ◆AIリテラシーレベルとAI応用基礎レベルを構成する科目体系



### ◆先導的で独自の工夫・特色ある取組

#### 地域連携、産業界との連携、海外の大学等との連携実績等



### ◆インターン・正規授業外での資格取得支援実績

連携企業 (ソフトバンク株式会社、SB C&S株式会社) とのインターン実施例  
2~4週間程度の就業体験ができる給与支給型のインターンで、参加者には卒業後に入社した実績あり  
「資格取得奨励金制度」で受験を支援、企業と連携した「AI教育連携プログラム」を提供  
令和6年度は情報処理推進機構が実施する資格を中心に139件、約310万円を給付、E資格の合格実績あり